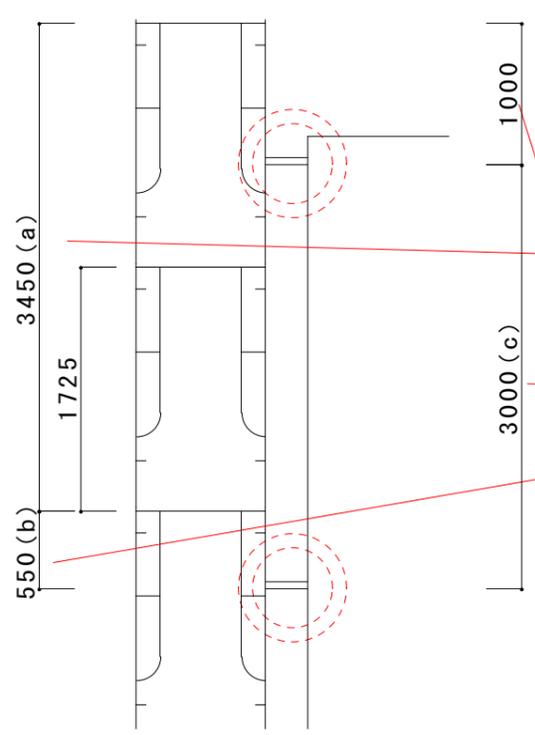


最上部の壁つなぎ間隔と上層二層部分の壁つなぎについて説明①



上層二層部分に壁つなぎが1か所の場合

取上部高さ Z	17250	(mm)
壁つなぎ横負担幅 Tw	3600	(mm)
壁つなぎ縦負担幅 Th	3600	(mm)
最上部横負担幅	3600	(mm)
最上部縦負担幅	3000	(mm)
<input type="checkbox"/> 突出部に控えを設ける		
控え設置角 θ1	45	(度)
最上部壁つなぎから足場上部までの高さ H	1000	(mm)

1.3. 最上部突出部の最上段壁つなぎの検討(P-65より)

突出部の単位高さあたりの分布荷重 W1 は
 $W1=qz \times C1 \times \text{ピッチ} = 19.14 \times 1.04 \times 3.600 = 71.66 \text{ (kgf/m)}$
 一般部分の単位高さあたりの分布荷重 W2 は
 $W2=qz \times C2 \times \text{ピッチ} = 19.14 \times 1.27 \times 3.600 = 87.51 \text{ (kgf/m)}$

上層2層の高さ a=3.450 (m)
 上層2層から下の壁つなぎまでの高さ b=0.550 (m)
 最上部壁つなぎ縦負担幅 c=3.000 (m)

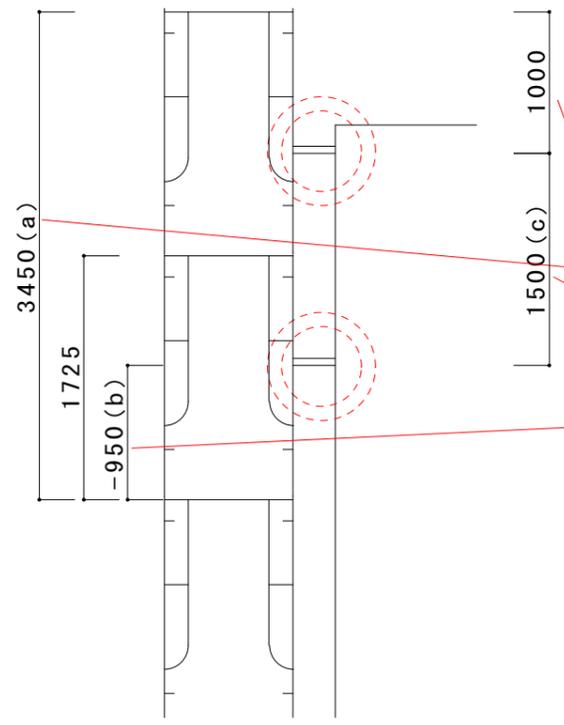
上層二層の高さは、常に変わりません。(建柱+ピン) × 2で自動計算されています。

上から2段目でのモーメントのつり合いより壁つなぎへの荷重 R は
 $R = \{W1 \cdot a(b+a/2) + W2 \cdot b \cdot b/2\} / c$
 $\therefore R = 191.89 \text{ (kg)} \approx 1880.52 \text{ (N)}$

壁つなぎへの作用応力の主体が風荷重である為許容耐力は3割増しで検討する

$450 \times 1.3 = 585.00 \text{ (kg)} \approx 5733.00 \text{ (N)} > R = 1880.52 \text{ (N)} \dots\dots\dots \text{OK}$

最上部の壁つなぎ間隔と上層二層部分の壁つなぎについて説明②



上層二層部分に壁つなぎが2か所の場合

取上部高さ Z	17250	(mm)
壁つなぎ横負担幅 Tw	3600	(mm)
壁つなぎ縦負担幅 Th	3600	(mm)
最上部横負担幅	3600	(mm)
最上部縦負担幅	1500	(mm)
<input type="checkbox"/> 突出部に控えを設ける		
控え設置角 θ1	45	(度)
最上部壁つなぎから足場上部までの高さ H	1000	(mm)

1.3. 最上部突出部の最上段壁つなぎの検討(P-65より)

突出部の単位高さあたりの分布荷重 W1 は
 $W1=qz \times C1 \times \text{ピッチ} = 19.14 \times 1.04 \times 3.600 = 71.66 \text{ (kgf/m)}$
 一般部分の単位高さあたりの分布荷重 W2 は
 $W2=qz \times C2 \times \text{ピッチ} = 19.14 \times 1.27 \times 3.600 = 87.51 \text{ (kgf/m)}$

上層2層の高さ a=3.450 (m)
 上層2層から下の壁つなぎまでの高さ b=-0.950 (m)
 最上部壁つなぎ縦負担幅 c=1.500 (m)

マイナスになるがエラーではありません

上から2段目でのモーメントのつり合いより壁つなぎへの荷重 R は
 $R = \{W1 \cdot a(b+a/2) + W2 \cdot b \cdot b/2\} / c$
 $\therefore R = 154.06 \text{ (kg)} \approx 1509.79 \text{ (N)}$

壁つなぎへの作用応力の主体が風荷重である為許容耐力は3割増しで検討する

$450 \times 1.3 = 585.00 \text{ (kg)} \approx 5733.00 \text{ (N)} > R = 1509.79 \text{ (N)} \dots\dots\dots \text{OK}$